

圏域	丹波圏域
会議	地域医療構想調整会議 平成29年度 第1回
日時	平成29年7月20日(木)15:00~16:00
場所	丹波市柏原福祉センター集会室
議長	篠山市医師会長 河合岳雄
出席者	欠席 中西篠山市薬剤師会長 以外は別紙委員名簿のとおり  その他の出席者 田中 丹波市医師会副会長
議事次第概要	1 丹波圏域地域医療構想調整会議について 2 病床機能報告結果について 3 地域医療介護総合確保基金(医療分)平成30年度地域事業提案について
内容	<p>1 丹波圏域地域医療構想調整会議について (1)地域医療構想の推進について (2)会議の検討内容・開催スケジュールについて (3)議長の職務代理者の指名</p> <p>2 病床機能報告結果について (1)報告結果(平成28年度)と必要病床数(平成37年)との比較等について情報共有</p> <p>3 地域医療介護総合確保基金(医療分)平成30年度地域事業提案について (1)事業概要・事業募集のスケジュールについて (2)事業の提案(3団体) ①処方・調剤情報共有システム構築事業 (たんば医療機関ネットワーク運営協議会) ・患者に配布するICカードを鍵とし、市内医療機関、薬局間での処方・調剤情報の一元管理を実施。 医療従事者間での処方選択の参考、重複投薬の防止、緊急時の患者情報の把握等の効果。 ②医科・歯科連携に資する人材養成のための研修の実施(篠山市歯科医師会) ・歯科医師が、疾病(糖尿病等)を持つ在宅療養者について学ぶための研修の実施。 ③訪問歯科診療推進事業(丹波市歯科医師会) ・訪問歯科診療の実施方法等に関する研修 ・医療機器の整備(訪問歯科診療セット、X線装置) ・在宅歯科医療についての啓発(ホームページ掲載、チラシ配布)</p> <p>【意見・質疑】</p> <p>1 事業①について (意見) ・利用者数に関する見込みが甘いように感じる。 ・問題点は出てくると思うが、まずは取り組んでみて欲しい。 ・地域医療構想に沿うかどうかという点について考えると、お薬手帳がないときに薬剤情報がわかるということは、在宅医療を直接的に推進するかどうかはわからないが、効率化にはつながる。 ・特に反対という意見もなく、また実施を望む意見もあったので、異議がないという結論でどうか。</p> <p>(質疑) ・薬剤情報以外の診療情報の共有へと発展させる意思はあるのか。 → 処方・調剤情報は第一段階であり、その後情報を追加していきたいと考えている。 ・篠山市の患者が丹波市で受診することもあり、システムがうまくいけば、篠山も参加したいと思う。 → 将来的には圏域として、篠山と連携できればと考える。 ・ICカードを使うわけだが、利用患者数はどの程度を見込んでいるのか。 → 現在の試算では、約2万5千人いる65歳以上の者のうち、3千人ほどの利用を見込んでいる。 ・利便性の点や、お薬手帳すら携帯しない患者もいる状況からして、ICカードが所持されるか心配。 住民全体に対する利用率は高くならないのではないか。 → 65歳以上の方については、インフルエンザ接種券の代わりにICカードを配布することで、カードを持ち歩く習慣ができると考えている。</p> <p>2 事業②について (意見) ・地域医療構想の趣旨に沿っていると考える。</p> <p>3 事業③について (意見) ・訪問歯科診療を行っていることを、ケアマネージャーに対して周知すれば良い。 ・訪問歯科診療は必要なこと。誤ってものを飲み込む、合わない入れ歯を外すなど危ない話がよくある。 ・在宅医療の観点から、地域医療構想の趣旨に沿っていると考える。</p> <p>(質疑) ・丹波市において訪問歯科診療に対する需要はあるのか。 → 在宅で寝たきりの場合などに、かかりつけの歯科医が訪問診療してくれることを知らない者が多い。訪問診療を行っていることを周知している歯科医には依頼があるので、アナウンスしていきたい。</p>
協議が調った事項	1 議長の職務代理者に丹波市医師会 石井会長を選出した。 2 地域医療介護総合確保基金の事業計画に盛り込む平成30年度地域事業として提案のあった以下の3事業について、いずれも「地域における課題に対応する事業」であると認めることに異議はなかった。 ① 処方・調剤情報共有システム構築事業(たんば医療機関ネットワーク運営協議会) ② 医科・歯科連携に資する人材養成のための研修の実施(篠山市歯科医師会) ③ 訪問歯科診療推進事業(丹波市歯科医師会)
次回以降の予定	未定